

一般質問



各消防団が日頃の訓練の成果を競っています

消防行政について

質問（高野礼子議員） サラリーマンの消防団員の増加により、有事の際に出動団員を確保できず消防車が出動できない状況があると聞きます。そこで、消防団退団者の活用について伺います。

答弁（市長） 消防団は、地元の実情に精通した地域住民から構成されており、地域密着性、要員、動員力及び即時対応力を生かして、災害対応はもとより、地域コミュニティの維持及び振興に大きな役割を果たしております。しかしながら、

少子高齢化、産業就業構造の変化に伴いまして、全国では昭和二十年代に二百万人いた消防団員は、平成二十二年四月一日現在八十八万人まで減少しております。本市におきましても、条例定数から見ますと、千三十九人に対して、九百四名の団員数であり、充足率は87%、百三十五名の欠員が生じております。

また、消防団員の就業形態も大きく変化をしております。以前は農林業などの自営業が多くを占めておりましたが、現在は

被雇用者、いわゆるサラリーマンの団員が76%を超えており、昼間は消防団員が居住地に数名しかいない状況も生じております。そうした中であって、消防団退団者の方々の知識、技能及び経験等を生かしながら、支援活動をしていただければ、被害軽減に非常に有効であると思われれます。昼間の災害や大規模災害等に限定して消防団活動を支援していただくための制度導入を検討してまいりたいと考えております。なお、制度導入に当たりましては、消防団員の理解と消防団の意向が重要となりますので、十分な協議を踏まえた上で進めてまいりたいと考えております。

八溝山周辺地域定住自立圏構想について

質問（菊池久光議員） 現在の進捗状況と今後の予定並びに道路整備・交通網整備が今後の計画には必要不可欠になると思いま

すが市の考えを伺います。
答弁（市長） 八溝山周辺地域定住自立圏構想は、本市が発起人となり、八溝山を中心に、その周辺七市町による研究会を発足し検討を開始したところであり、福島、茨城、栃木の三県にまたがる圏域の設定は全国でも例がなく新たな発想や経済効果が生まれるのではないかと期待をしております。

本年一月五日に第一回目の研究会を開催し、研究会の名称決定並びに各市町の課題や展望等の確認を行いました。また、二月二十日には二回目の研究会を開催し、今後取り組むべき課題の洗い出しを行い、分野ごとに分科会を設置し研究を開始することになりました。

八溝山周辺地域において基幹道路や交通網整備は圏域の活性化に必要なインフラであり取り組むべき課題の一つであり、また、圏域内が生活圏として結びつき、さらには観光ネットワーク

クを構築する上で必要な基幹道路や交通網を圏域全体としての整備に向け、八溝山周辺地域として国・県に強く働きかけたいと考えております。

今後は地域医療、道路及び観光などの圏域として取り組むべき課題について全体会及び分科会を開催し研究していきたいと考えております。なお、研究会において定住自立圏形成協定に向け、一定の方向性を見出した段階で、本市が中心市宣言を行いたいと考えております。



八溝山周辺地域定住自立圏構想の第1回研究会の様子